

地域とつながる生きた学びに

2/3

川根高校で地生学の成果発表会が行われました

川根高校で行われている地生学は地域創造を目指した学校設定科目で、「川根を学び、その魅力や課題を発見し自己の学びに結びつけ、思考力・判断力・表現力を育成するとともに、川根愛を育む」ことを目的に、地域の課題に対して生徒それぞれがテーマを設定して取り組みます。

今年度は3年生38人のうち18人が地生学に取り組み、「国語」「地歴・公民」「体育」「商業」のそれぞれの課題で発表を行いました。

川根高校の須藤校長は「自分たちが考えた課題に取り組む中で地域との繋がりができ、生きた学びになっていく」と講評しました。



●計画や実践などさまざまな報告が行われました

素早い対応が被害を防ぐ

1/26

桑野山区で文化財防火訓練が実施されました

1月26日の文化財防火デーに合わせ、桑野山区の「東方薬師堂」において防火訓練が実施されました。

訓練には島田消防署、町消防団、地区自主防災会など約80人が参加しました。火災を発見した地区住民による通報と初期消火、消防による放水が行われ、火災発生時にスムーズな連携を行うための手順などを確認しました。

今回の訓練を統括した島田消防署の山崎警備担当課長は「文化財の火災は時間との戦い。素早い対応と情報伝達の連携を」と話しました。



●薬師堂へ放水する消防隊員

2/6~7

教育のあり方を話し合う

教育に係る意見交換会が実施されました

昨年度から川根本町で進められている「これからの町の教育のあり方についての検討」の一環として、町内2箇所の子育て支援施設を利用している保護者の皆さんによる意見交換会が開催されました。

現在町で推進している教育プランの説明の後、子育てや教育に関する疑問や今後の展望などについて意見が交わされました。

大橋教育長は「学校教育ビジョンに対し普段持たれている疑問を教えてもらえる場になれば」と話しました。



●少子化が進む中での教育について意見が交わされました

「地域課題の解決」をテーマに活発な意見交換

1/31

町内の若手従業員を対象とした異業種交流会を開催

町内の事業所に勤める若手従業員の「企業文化の垣根にとらわれない仲間づくり」を目的とした「異業種交流会」が文化会館にて開催されました。

5回目となる今回は、11事業所から20名が参加し、「町を盛り上げるためにできること」をテーマにグループワークを行いました。全体発表では、各グループから「茶やジビエを活用したお土産商品の開発」や「住民が気軽に町内外へ情報発信できるウェブサイトづくり」などの意見が出され、参加者からは「町のことを知る良い機会になった」「アイデアの実現に向けて活動してみたい」といった感想が聞かれました。



●さまざまな視点から意見を出し合う参加者

高校生ツアーは3月13~14日に実施予定

2/8

高校生による地方創生研究発表会が実施されました

島田市川根町のチャリム21で、島田掛川信用金庫主催による高校生の地方創生研究発表会が開催されました。

今回は川根本町・静岡市・島田市・菊川市・掛川市・牧之原市から10校が参加し、それぞれ独創性あふれる発表を行いました。

川根高校は昨年度に実施した高校生ガイドツアーの第2弾を発表。今回は地域の魅力を県外へ発信するためのモニターツアーとして県外企業を対象に実施することになりました。

発表を行った川根高校の内藤大和さんは「SLの車内アナウンスを担当します。今から緊張していますが頑張ります」と意気込みを語りました。



●今回の高校生ツアーは1泊2日の計画となります

農地利用の最適化を目指す

2/3

「川根美味しいたけ」が県知事表彰を受けました

静岡市で開催された「令和元年度ふじのくに農地有効活用シンポジウム」において「川根美味しいたけ」(地名)が静岡県農地利用最適化推進活動表彰の優秀賞を受賞しました。

「川根美味しいたけ」は、農地中間管理機構関連整備事業を活用し、担い手不足や高齢化により後継者不在となっている茶園を引き受けたほか、規模拡大が難しい中山間地で茶園の集積・集約化を進め、下泉の原地区や西地名地区などにおいて地区内の約7割を集積・集約化したことが評価されました。



●前列右から3番目が「川根美味しいたけ」の西原睦美代表